
 * 第八章 在庫報告システム *
 * *****

基準書 発行年月	フォーマット バージョンNo.
-------------	--------------------

昭和62年 3月	—
昭和63年 5月	—
平成元年 3月	制定 「 1 」
平成 3年 3月	改訂 「 2 」
平成25年 8月	注事追加 「 2 」

※注事：メーカー／卸店で、原則として遵守すべき運用ルールの明確化や、物流シンボルコードを集合包装用商品コードに変更するなど、現時点での最新の用語に修正した。

I 運用基準

1) データの利用目的

1. 商品在庫リスクを最小化するデータとして活用する。

適正在庫の確保

2) データの提供サイクルとタイミング

- ① 日々の在庫（当日末）
 - ② 旬末の在庫（旬末日）
 - ③ 月末の在庫（月末日）
- * 提供のタイミングに関しては，双方の協議にて決定する。

3) データ提供方法

- ① オンライン
- ② MT
- ③ フロッピーディスク

4) データの範囲

数量は，良品のみの数字を報告する。

II 標準フォーマット

1) レコードの種類

1. ファイルヘッダーレコード (必須) レコード区分 1

各ファイルの先頭に付けられ，ファイルの送信先，提供先の情報を入れ，日付等該当送信ファイルの属性を明確にする為のレコードである。

基本は，1ファイルにつき1件作成されるが，1制御電文中に複数個もありうる。

※ 詳細は，第三章Ⅲ共通レコードのフォーマット及び使用ガイドを参照。

2. 提供部門レコード (必須) レコード区分 2

提供する在庫の日，提供企業の属性を明確にする為のレコードである。

3. 商品データ部レコード (必須) レコード区分 3

商品の明細を表わし，1レコードに3商品分入れられるレコードである。

4. 商品データオプションレコード (任意) レコード区分 4

提供する商品名をセットするレコードである。

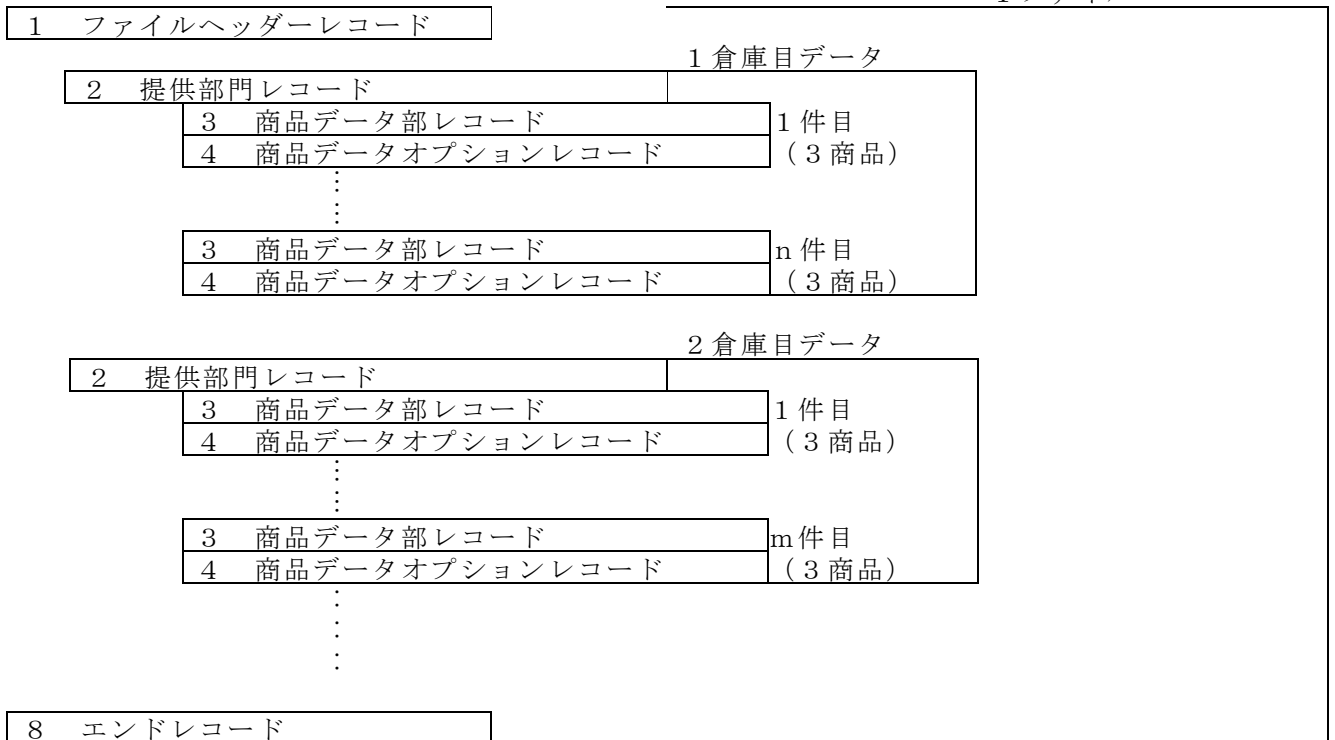
5. エンドレコード (必須) レコード区分 8

ファイルの終了を表わすレコードで，1ファイルに1件作成する。

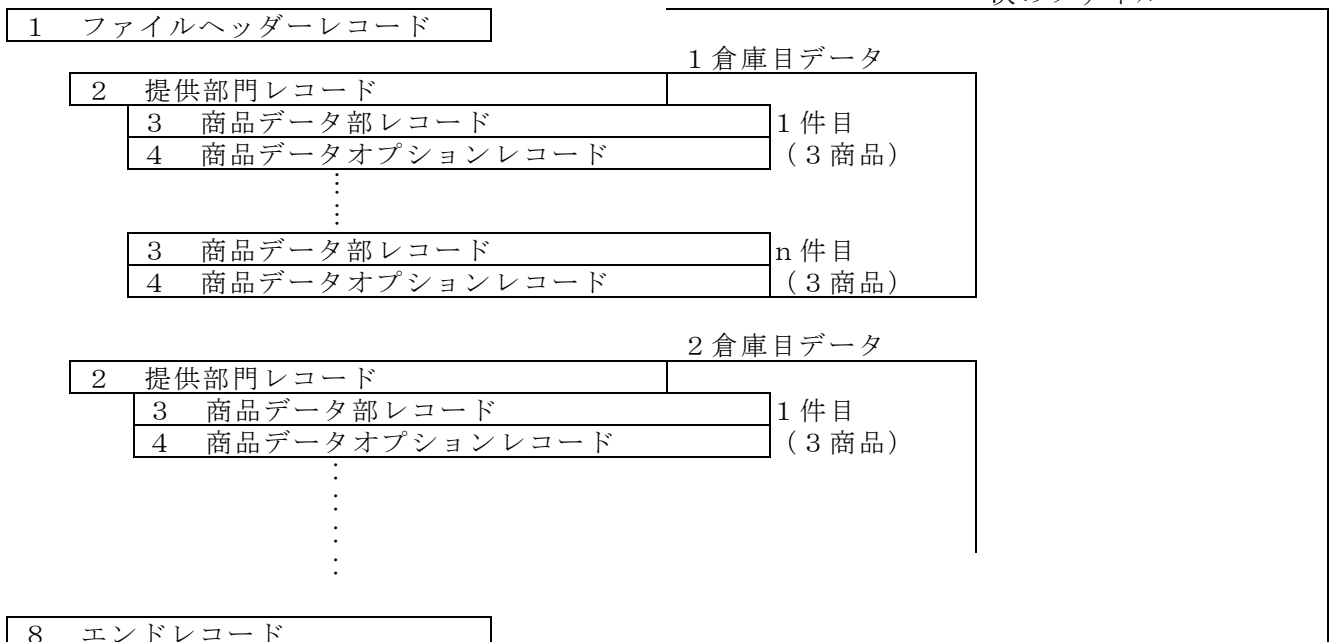
※ 詳細は，第三章Ⅲ共通レコードのフォーマット及び使用ガイドを参照。

2) レコード作成イメージ

1 ファイル



次のファイル



3) フォーマット及び使用ガイド

1. 共通レコード

ファイルヘッダーレコード, エンドレコードは, 第三章Ⅲを参照。

2. 提供部門レコード

条件欄 ◎: 必須 ○: 選択必須 △: 任意

No.	Content	条件	Col	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
1	レコード区分	◎	1	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす「2」
2	データシリアルNo.	◎	2	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	提供企業コード (又は提 供企業事業所コード)	◎	9	X(12)	CH	12	提供企業単位のコード。 業態統一又はプライベートコード
4	提供企業名称	◎	21	X(25)	CH	25	提供企業名のカナ文字 左詰め 残 余白
5	予備	△	46	X(15)	CH	15	企業名漢字表現の場合, 提供部門 名と共用して使用
6	倉庫コード	○	61	X(12)	CH	12	倉庫コード 業界統一又はプライベートコー ド
7	倉庫名称	○	73	X(25)	CH	25	倉庫名のカナ文字 左詰め 残 余白
8	予備	△	98	X(15)	CH	15	倉庫名漢字表現の場合, 倉庫名と 共用して使用
e	9 提供企業取引先コード区分	◎	113	X(01)	CH	1	△: 業界統一コード 1: プライベートコード
e	10 倉庫取引先コード区分	○	114	X(01)	CH	1	〃
e	11 在庫の日付	◎	115	X(06)	CH	6	在庫日 (YYMMDD) 西暦
e	12 提供サイクル区分	◎	121	X(01)	CH	1	1: 日 2: 旬 3: 月
e	13 在庫の種類	◎	122	X(01)	CH	1	1: 現物在庫 2: 受注可能残在庫 3: 入荷予定込み在庫 9: その他
e	14 日本語区分	◎	123	X(01)	CH	1	△: カナ表現 1: 漢字表現
eh	15 余白	△	124	X(05)	CH	5	

e: 先頭桁番号変更

h: 長さの変更

- 2-1. レコード区分
提供部門レコードであることを認識する。
固定で「2」をセットする。
- 2-2. データシリアルNo.
ファイルヘッダー単位のデータ通しナンバーをセットする。
ファイルの最初の提供部門レコードであれば「0000002」がセットされる。
- 2-3. 提供企業コード（又は提供企業事業所コード）
データ提供者の企業コード（又は事業所コード）を表示する。
使用するコードは、酒類食品全国コードセンターに登録した取引先コードを原則とし、
左詰め8桁で表示し、残桁はスペースとする。
- 2-4. 提供企業名称
データ提供者の企業名（事業所名）をカナで表示する。
- 2-5. 予備
データ提供者名を漢字で表示する場合、項番2-4. 提供企業名称欄と合わせて20桁で
表示する。
※ 項番2-14. 日本語区分に「1」をセットし、項番2-7～8. 倉庫名称も同時に漢
字化する必要がある。
- 2-6. 倉庫コード
データ提供の対象倉庫又は配送センター等のコードを表示する。
使用するコードは、酒類食品全国コードセンターに登録した取引先コードを原則とし、
左詰め8桁で表示し、残桁はスペースとする。
- 2-7. 倉庫名称
対象となる倉庫又は配送センター等の名称をカナで表示する。
- 2-8. 予備
倉庫名を漢字で表示する場合、項番2-7. 倉庫名称欄と合わせて20桁で表示する。
※ 項番2-14. 日本語区分に「1」をセットし、項番2-4～5. 提供企業名称も同時
に漢字化する必要がある。
- 2-9～10. 提供企業取引先コード区分，倉庫取引先コード区分
項番2-3. 提供企業コード及び、項番2-6. 倉庫コードを、酒類食品全国コードセンタ
ーのコードを使用して表示しているかどうかを識別する。
△：酒類食品全国コードセンターに登録された取引先コードを使用
1：プライベートコードを使用
- 2-11. 在庫の日付
提供する在庫情報が何日現在の数字であることを識別する。
- 2-12. 提供サイクル区分
在庫情報を提供するサイクルをコード化し、表示する。
1：日 毎日提供
2：旬 10日毎提供
3：月 毎月提供
- 2-13. 在庫の種類
良品の在り高がどこまでの数字を含んでいるかを識別する。
1：現物在庫 3：入荷予定込み在庫
2：受注可能残在庫 9：その他
- 2-14. 日本語区分
項番2-4～5., 2-7～8. を漢字で表示しているか否かを識別する。
△：カナ表現
1：漢字表現

3. 商品データ部レコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Col	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
1	レコード区分	◎	1	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす「3」
2	データシリアルNo.	◎	2	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	商品コード区分	◎	9	X(01)	CH	1	1：プライベートコード 2：JAN+荷姿コード 3：JANコード 4：集合包装用商品コード 5：SDPコード 6：GTIN
h	4 商品コード	◎	10	X(16)	CH	16	標準コードの設定がなければプ ライベートコードを使用
e	5 入数	◎	26	9(04)	ZD	4	ケースあたりの個数
e	6 ケース数	◎	30	S9(07)	ZD	7	ケース数の値
e	7 個数	○	37	S9(07)	ZD	7	個数の値
eh	8 予備	△	44	X(05)	CH	5	
	9 く 14		49			40	項番No.3～8.の繰り返し し使用
	15 く 20		89			40	項番No.3～8.の繰り返し し使用

e：先頭桁番号変更

h：長さの変更

3-1. レコード区分

商品データ部コードであることを認識する。

固定で「3」をセットする。

3-2. データシリアルNo.

ファイルヘッダー単位のデータ通しナンバーをセットする。

ファイルの最初の商品データ部レコードであれば「0000003」がセットされる。

3-3. 商品コード区分

利用しているコードの種類を識別する。

- 1：プライベートコード
- 2：JAN+荷姿コード
- 3：JANコード
- 4：集合包装用商品コード
- 5：SDPコード
- 6：GTIN

3-4. 商品コード

標準コードが設定されている場合には、標準コードの使用を原則とする。
未設定の場合は、利用者双方で協議し、プライベートコードを使用する。

3-5. 入数

夫々の商品のケース内の単品入数を表示する。
入数が異なるものは、別商品扱いとし、新たに商品コードを設定する。

3-6. ケース数

在庫数をケース単位で表示する。

3-7. 個数

在庫数は、ケース換算してその数量を項番3-6. ケース数欄に表示し、端数を個数欄に表示することを原則とする。(入数とケース数の積を総個数換算して表示する項目ではない。)

企業によっては、ケース数欄を使用せず、総数をバラ個数で表示したり、個数欄は使用せずケース数のみを表示することもあるので、システム導入に際し、当事者双方で確認が必要である。

(例) A商品30入り が200個ある場合

	入数	ケース数	個数
原則	0030	0000006+	0000020+
例外1	0030	0000000+	0000200+
例外1	0030	0000006+	0000000+

3-8. 予備

今後、新たに追加される項目の為のリザーブエリアである。
スペースをセットする。

3-9～14. 項番No. 3～8. の繰り返し使用

2件目の商品データをセットする。

3-15～20. 項番No. 3～8. の繰り返し使用

3件目の商品データをセットする。

1レコードに3商品の情報がセットできる。

4. 商品データオプションレコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Col	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
1	レコード区分	◎	1	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす「4」
2	データシリアルNo.	◎	2	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	商品名	◎	9	X(26)	CH	26	提供企業で使用している名称を カナで表示
4	予備	△	35	X(12)	CH	12	商品名漢字表現の場合、商品名と 共用して使用
5 6	項番No. 3~4. の 繰り返し使用	◎	47	X(38)	CH	38	
7 8	項番No. 3~4. の 繰り返し使用	◎	85	X(38)	CH	38	
9	余白	△	123	X(05)	CH	5	
10	日本語区分	◎	128	X(01)	CH	1	△：カナ表現 1：漢字表現

4-1. レコード区分

商品データオプションコードであることを認識する。
固定で「4」をセットする。

4-2. データシリアルNo.

ファイルヘッダー単位のデータ通しナンバーをセットする。

4-3~4. 5~6. 7~8. 商品名, 予備

項番3-3~8., 3-9~14., 3-15~20. の夫々の商品に対応した項目である。
データ提供企業で使用している商品名をカナ文字26桁で表示する。漢字を使用する場
合には、後続の予備欄と合わせて19文字で表示する。

4-9. 余白

今後、新たに追加される項目の為のリザーブエリアである。

4-10. 日本語区分

3明細の商品名がすべてカナ表示か漢字表示かを識別する。
△：カナ表示で、項番4-3, 4-5, 4-7にデータがセットされている。
1：漢字表現で、項番4-3~4, 4-5~6, 4-7~8にデータがセットされている。